

駒ヶ根市公民館報

# 館報 駒ヶ根

令和5年  
7月11日

vol. 166



■ 撮影者 匿名

## 公募写真テーマ『集う』

- 4年ぶりに開催した、高鳥谷山あるけあるけ大会の様子です。山頂に駒ヶ根太鼓の演奏が響き渡りました。毎年登る子どもたち、久々登る大人たち。標高1,331mは、人により違う高さを感じられたようです。

※今号の表紙写真は応募いただいた写真を使用しています。

次号 館報『駒ヶ根』167号

表紙写真募集  
テーマ『動く』



詳細は申込みフォームをご覧くださいか、各公民館へお問い合わせください。

※申込締切は令和5年9月14日(木)まで



## 歌声広場でリフレッシュ

駒ヶ根駅前ビル アルパ3階で月1回、第2火曜日の午後1時30分～3時にカルチャークラブゆあ～ず主催の『歌声広場』が開催されています。毎回演奏ゲストをお迎えし、会員さんが集って、懐かしい歌だけでなく、流行歌も取り入れて、思い思いに歌う楽しい時間です。

『歌声広場』は「お年寄りが気軽に立ち寄って交流できる場を作りたい」と企画され、2010年9月の第1回から今回で143回を数える人気の催しです。

ゲストは多彩で、ウィンドサクソを中心にしたバンド、音楽療法の先生、大正琴のグループなど月替わりの内容です。うろ覚えの曲でも歌詞が用意されるので、楽しく口ずさめます。懐かしい歌をきっかけに昔話に花が咲くことも。歌の合間には、司会の軽妙なトークと座ったまま出来る軽いストレッチやゲームなどもあり、笑い声が絶えません。

5月のゲストはQバーズのみなさん。Qホイッスルという柔らかな音色の木製のオカリナを奏でるメンバーの息の合った美しいメロディが心に響きます。

参加される皆さんにとって、月1回のリフレッシュできる大切な時間になっているようで「ここで歌えることが毎月の楽しみ」「お友達とお話できるのが嬉しい」と語って下さいました。

参加にはゆあ～ずの会員であることが必要ですが、事前申し込みで見学参加可能です。費用は、お茶菓子も付いて1回300円。楽しい歌の広場を覗いてみてはいかがでしょうか？



歌声広場のひとこま

お問い合わせ：090-2324-4357  
(ゆあ～ず代表 宮下さん)

## 登下校を見守る地域の日

我が家の子どもが小学生になり、通学途中に『登下校見守り隊』という帽子をかぶり、ほぼ毎朝通学路に立たれている方がいることを知りました。子ども達の間では「ハイタッチをしてくれる優しいおじさん」と親しまれています。

この方は今から7年前、地域のために何かできないかと考えていたところ、友人との飲み会で「登下校見守り隊をやらないか」と声を掛けられたことをきっかけに始められたそうです。立たれている場所は、一般国道153号、警察署方面に向かう街路樹の多い交差点。そこは、横断歩道を渡る子ども達の姿がわかりにくい場所で、おじさんが車に一旦停止を促し、安全に横断できるよう誘導してくださっています。

過去の活動中に2度、赤信号にも関わらず横断歩道に侵入してきた車と子ども達が接触しかけたことがあったそうですが、幸い怪我はなかったようです。安全意識の低いドライバーが身近にいることに大変驚きました。また、そんな場面を登下校見守り隊の方が救ってくださっていたことに、感謝の思いでいっぱいです。おじさんは「登下校見守り隊として活動を始めてから今日まで、子ども達に毎朝行き合うことでたくさんの元気をもらっている」とお話しされていました。

コロナ禍で地域交流の機会は大幅に縮小されました。一方で、その中でも途絶えることなく地域の方々の温かい眼差しで見守り活動が続いています。私たち親も、子ども達が安心して暮らせる街づくりを、出来ることから始めていきたいと思いました。



「登下校見守り隊」は赤穂小学校の  
コミュニティスクール活動の一つです

## 令和5年度 館報編集委員紹介

今年度の公民館報の記事を執筆していただく、館報編集委員の皆さんをご紹介します。

池田 恵子 (上穂町)  
西那 麻衣子 (上穂町)  
宮下 満智子 (中沢)  
山岸 稔員 (東伊那)



分館紹介  
No.1

## 東伊那 火山分館



火山分館では、昭和のころは卓球大会、平成15年頃からトリムバレーボール、コロナによる中止を挟んで令和4年度にはポッチャを行いました。きっかけは分



## 中沢の夏まつりに込めた想い

「天竜かっぱ祭りも閉幕となり、子ども達の心に残るふるさとの思い出をつかってやりたい」と地域の方々からそんな声上がり、発起人会が立ちあがった。実行委員会での協議、準備を経て、今年の8月6日に『中沢の夏まつり』を開催した。

祭り当日は夕方から縁日が開催され、商工会・なかっぱ市・中沢食堂・軽トラ市・桜木園・中沢夢倶楽部・JOCAなどによるテントが並んだ。特に中学生スタッフによる綿菓子やかき氷、風船コーナーには、参加者の長い列ができた。夕闇が迫ると、体育館の大きな外壁をスクリーンとして野外映画祭「トムとジェリー」が始まり、会場は大きな笑い声に包まれた。

夜7時30分にはカウントダウンが始まり、校庭の周りに設置された4万球を超えるイルミネーションが点灯され、大きな歓声を上げながら走り回る子ども達の姿が見られた。打ち上げ花火開始の時間が近づくと、校庭を取り巻くように600名近くの住民が集まり、目の前から打ち上がる迫力ある花火に酔いしれた。花火代の多くは地域住民の方々自ら公民館に届けて下さった寄付によるもので、その額は100万円を超えた。花火の後、みんなでゴミ拾いをした。翌朝、ゴミの点検を行ったがきれいに拾ってあり感動した。

“中沢の子ども達の思い出づくり”というコンセプトを大切にしながら、今年も開催に向け動き出している。あの時、あの花火を見た子ども達が、いつか思い出の詰まったふるさとに戻ってきて、中沢の将来を担ってくれるようになれば嬉しい。今後も中沢の財産として末永く続く祭りにしたいと思う。



迫力満点の  
打ち上げ花火  
撮影 宮下久義氏

## 早起き野球『東伊那クラブ』復活

駒ヶ根市の早起き野球連盟は、53年前の昭和45年に教育委員会運営でスタートした。東伊那でも参加しようと、有志3名が選手を集め、チーム名を『ジャンケンズ』として発足。発足当初は17チームで競う中、チーム名のご加護か、同点・時間切れでのジャンケン勝負には強く、殆ど負けなかったそうです。

その後、東伊那地区内で新たなチームを作りたいと発展的解散となり、『東伊那クラブ』『塩田コンドルズ』『遊光クラブ』『火山クラブ』『東伊那青年会』『ブラボーズ』『ペガサス』など再編を繰り返しました。東伊那から同時期5チーム、最盛期には市全体で52チームもの登録があったようです。

いつの時代も最大の課題は、“早起き！”あるチームでは、監督が早朝4時半に起きるまでクラクションを鳴らして回っていたそうです。携帯電話普及前の苦肉の策ですね。

時とともに市内全体のチーム数が徐々に減少。背景には、スポーツの多様化、人口の減少等時代の流れと、東伊那的には消防団のポンプ操法熱の高まりもあったのでしょうか。昭和51年から参加していた『東伊那クラブ』もついに解散となり、熱心な選手は、市内のチームへ移籍して活躍を続けた。

市民総体の慰労会の席で、東伊那の仲間でチームを復活したいとの声上がるもなかなか実を結ばず。令和元年、解散時のメンバー3人が若手の熱い思いを酌み、20名が参集して『東伊那クラブ』の復活が決まった。18年ぶりにスタートしたものの、直後にコロナ感染拡大でまともなリーグ戦はできず。今年こそ、他チームを含め熾火おきびのように絶やすことなく続くことをお祈りします。



みつからない初代ユニフォーム

## 令和5年4月1日現在 290人、区加入世帯 80戸)

館長主事会での体験でした。ポッチャ・モルック・囲碁ボールを体験し、年齢関係なくできるスポーツとして『ポッチャ』を取り入れました。

当日は、小学生から70代までの参加者が、会場に到着した順にくじを引き、40人が8チームに分かれてプレーしました。人数を統一しなくても、投球回数をそろえれば問題なし。一部分館ルールを採用しての開催でした。参加者から

は「楽で面白かった」「誰でもできるよね」「子どもの方がうまかった」とのこと。分館長さんは「2年間ほぼ主催事業が中止の中で、最後にやっと開催できた。慰労会はできなかったが、参加してくださった皆様が、それぞれ楽しくやってくれたようで、実施してよかったです」とのことでした。





令和5年度

# 分館長・主事紹介



各地域の分館長・主事の皆さんを紹介いたします。  
『今まで通りに』また『新たに』分館活動は既にスタートしています。地域を結ぶ各種事業にぜひご参加ください。

分館名	分館長	主事
南割	林 茂実	吉澤 徹
中割	土橋浩一郎	○ 荻原 亮二
北割2区	原 清隆	三島 泰明
北割1区	野崎 勝弘	三ツ井康成
小町屋	園原 幸樹	木下 和孝
福岡	芦部 敦彦	横手 聡志
市場割	麦島 則和	長尾 成博
上赤須	福澤 泰陽	中山 晃
下平	◎ 中城 文人	菅沼 聡
町1区	佐野 秀一	戸枝 仁
町2区	北原 純	松崎 雄介
町3区	登内 裕之	横山 正幸
町4区	堀内 裕之	河合 信明
上穂町	井口 正孝	五味 克仁

◎会長 ○副会長 ★主事会長 (敬称略)

## 中沢公民館

分館名	分館長	主事
吉瀬	○ 林 仁志	林 俊一
永見山	滝澤 哲也	滝澤 哲也(兼)
菅沼	菅沼 幸弘	★ 宮下 正広
下割	林 康治	菅沼 健一
中割	◎ 三和 哲夫	宮脇 久
上割	森 達哉	木下 敦
中山	北沢 孝男	
大曾倉	下平 稔	菅沼 三好
中曾倉	藤井 信	宮脇 義徳
本曾倉	小林 泰徳	上村 智彦
原	下島 博文	北原 芳美

## 東伊那公民館

分館名	分館長	主事
伊那	竹内 和人	深谷 俊英
栗林	◎ 滝澤 雄二	福島 博司
火山	中嶋 敏文	下平 武史
塩田	福澤 秀雄	★ 馬場 浩志
大久保	赤羽 芳春	中村 康裕

## お知らせ 平和講座

主催 駒ヶ根市公民館協議会

日時  
7月22日(土)  
午後1時30分～3時00分

会場  
赤穂公民館  
ホール

講師  
矢澤静二氏



- ・赤穂小学校 教頭(H15～17)
- ・赤穂東小学校長(H23～24)
- ・郷土研究誌「伊那路」編集委員

演題  
「特攻隊に感動と熱狂の上伊那の子どもたち」  
—誰が・何がそうさせたのか—

## 新任職員の紹介

よろしくお願いします



赤穂公民館係長主事  
松村 洋司

- 地区 北割一区
- 趣味 F1観戦・料理

4月から赤穂公民館でお世話になっております。コロナによりマスク着用後の人事異動のため顔と名前を覚えるのが大変だと感じています。今後公民館事業を通じての交流や地域活動に微力ながら貢献できればと思っております。よろしくお願いします。



赤穂公民館主事  
川尻 亜矢子

- 地区 南割区
- 趣味 踊ってみた動画を観ること

本年度駒ヶ根市社会人採用で赤穂公民館に配属となり、お世話になっております。岡谷市出身ですので、駒ヶ根の魅力を絶賛勉強中です。おすすぬなどありましたら是非教えてください。公民館が皆様の学びと交流の場となりますよう努めますので、よろしくお願いします。



赤穂公民館指導員  
湯澤 千夏

- 地区 上穂町区
- 趣味 野球観戦・ゲーム

4月から赤穂公民館でお世話になっております。地域に携わる仕事をさせていただく事を嬉しく思います。皆さんの元気をいただきながら日々精進して参りたいと思います。コロナ緩和で少しずつ動きだす年になるかと思っております。より多くの皆様のご来館をお待ちしております。

## 編集の窓

生まれ育ったこの街に戻り十数年。ついに下の娘も母校へ通うようになりまして。心配性の一面を持つ彼女は、何かをしようとする度に先生の許可を得たがるとのこと。二つ上の息子も、進級と共に新しいことへ挑む場面が増えていきます。

それぞれの先生が子どもを通じて伝えてくださるのは、”上手いかわなくても、その経験を糧にして成長しよう!”という前向きなメッセージ。

“失敗は怖い。でも、失敗しても大丈夫。”

これからを生きるためにとっても大切なことを、親も共に学ぶ毎日です。  
(西那麻衣子)

連絡先

赤穂公民館 TEL.83-4060  
中沢公民館 TEL.83-5125  
東伊那公民館 TEL.82-4664

編集・発行

編集／駒ヶ根市公民館報編集委員会  
発行／駒ヶ根市公民館協議会  
印刷／株式会社宮澤印刷